

研究室 からの メッセージ

113

Data(2014年4月現在)

所在地: 〒950-3198 新潟県新潟市北区島見町1398

スタッフ: 小山歌子(教授), 石原美由紀(准教授), 宇田優子(准教授), 杉本洋(講師), 稲垣千文(助教), 小林房代(助教), 磯部直子(助教)

URL <http://www.nuhw.ac.jp/>

後列左から
小林, 稲垣, 磯部
前列左から
宇田, 小山, 石原, 杉本



新潟医療福祉大学健康科学部看護学科 健康機能発達看護学領域

History and Now

どのような機関なのでしょう？

新潟医療福祉大学は2001年に創設された比較的新しい大学です。開学以来「優れたQOLサポーターの育成」を基本理念に、さまざまな取り組みを実践してきました。その中の1つが、保健・医療・福祉・スポーツの4学部11学科の総合大学であるメリットを最大限に活かした学部・学科の枠を超えた「連携教育」です。チーム医療をはじめとする「多職種間連携」について実践的に学ぶ機会が多く設けられています。看護学科は2006年に新設され、2009年に1期生を輩出して以来、これまでに多くの卒業生が巣立っています。

Education

どのような教育をしていますか？

看護学科では、看護専門職として「自ら考え、自ら解決する力」を培うための少人数グループによるPBL(問題基盤型学習)と、看護に必要なマネジメント能力を培うための保健医療福祉専門職の「連携教育」を1年次から積極的に取り入れています。

公衆衛生看護学では、地域で暮らす人々の多様な価値観を尊重した地域看護活動を実践する基礎能力の修得を目的としています。演習ではSP(模擬患者)を多用して1人ひとりが背景をもった個別的な存在であることを学びます。臨地実習は、2年次に大学のある地域をフィールドに地域診断方法を学び、3年次には新潟県北西部の保健所、市町村で行います。

在宅看護学では、在宅療養者と家族のQOLを高めるために必要な知識・技術の修得をめざして教育しています。いずれも、PBLで自発的、積極的に問題解決に取り組み、グループで討議することで学生が大きく成長していきます。

災害看護学では、新潟県の被災地としての経験を活かしてきわめて実践的な講義、演習を行っており、学生の災害看護に対する意識も高まります。

Research

どのような研究をしていますか？

保健活動現場の課題解決のために、また、保健師活動に根拠性の担保を提供できるよう研究に取り組んでいます。そして研究活動を通して地域の人々の健康をめざしています。本学科が力を入れている災害看護学領域では、被災者の健康支援や難病患者の災害への備えについて研究をしています。また、地域ケアシステムの構築や保健事業推進評価、地域ケアの専門職育成・支援、地域の方々へのエンパワメント、高齢者の介護予防や孤独死予防、学生への健康支援や実習支援体制の改善、海外の保健活動についても研究を進めています。

Collaboration

地域の保健活動の現場とのつながりは？

大学のある新潟市北区での事業企画評価や、県や日本看護協会の中堅保健師教育に協力しています。また、自治体からの要請を受け審議会や委員会への参加も行っています。そして地方離島での保健活動支援として家庭訪問を行っています。

ひとこと

まずは保健師という職業に興味をもってもらいたい！ この熱意をもって日々学生と関わっています。他大学に比べて歴史は浅いですが、徐々に保健師として就職していく学生が増えてきました。10年後20年後の卒業生が地域保健のリーダーとして活躍してくれることを切に願っています。

……小山

あなたの研究室を紹介してください！ 保健師ジャーナルでは、このページに登場してくださる研究室(保健師教育に関わる講座・分野・領域)を募集中です。研究室での保健師教育の特色や、研究活動、現場とのつながりを紹介してください。

応募方法 ●電話, FAX, E-mail のいずれかにて編集室までご連絡ください。掲載分には医学書院特製図書カードを進呈いたします。

連絡先 ●医学書院「保健師ジャーナル」編集室 ☎ 03-3817-5774 FAX 03-5804-0485 hokenshi@igaku-shoin.co.jp